

提案趣旨説明書

〈作品タイトル〉

三河安城パラレロ

〈提案の趣旨〉

矢総公園とマチナカプレイス1からなる敷地に、建物とランドスケープによる場所づくりを提案します。「三河安城パラレロ」の名は平行四辺形 (parallelogram) に由来しますが、「歩きたくなる街を駅前から」をモットーにこの敷地に取り組む中で、以下3つの「パラレル」な状況がこの場所に望まれていると考えました。

1. 平行に基づいた秩序ある豊かな空間がある
2. さまざまな場所や活動が同時進行するなかで、どんな人にも居場所の選択肢が見つかる
3. 同じ場所にいる人、いない人と同時に興奮や感動を分かちあう場所になる

私たちの提案は3つの「パラレル」を兼ね備えるための具体策です。在来線と新幹線のふたつの駅間にスムーズな移動空間と、快適な新しい居場所を適切に配置し、それらが絡み合うことによって、駅前のユニークな風景と居心地の良さがともに創出することを目指しました。

芝生広場は、矢総公園が従来果たしてきたイベント会場としての役割を踏襲します。車両によるサービスを広場内に持ち込むことにより機能拡充を図ります。また平行四辺形の角度は人の集まり方に変化を与え、この場所の雰囲気づくりに生かされます。一方、東西に延びる大屋根の建物は、3カ所のサポート施設を備えています。民間に運営委託するカフェ、市が管理するトイレ・倉庫と、市が希望者に貸し出すレンタルスペースの3つです。特にレンタルスペースは、地域の魅力を引き出すあらゆる活動に光を当てる発信型「活動者」を、まちづくりに取り込むための提案です。